

大西さんの訃報をお聞きしてから早いものでもうすぐ10ヶ月になろうかとしています。大西さんのご冥福をお祈りいたします。

大西さんとの思い出を振り返りつつ追悼の文とさせていただきます。

それ以前から研究会等でお会いしたことはありましたが、私が初めて大西さんと研究について議論したのは私がD3になったばかりの春に基研でセミナーをさせていただいたときだと記憶しています。当時京大の学生だった土居さんと筒井さんを交えてセミナー後にLefschetz thimble法や複素Langevin法について楽しく議論できたのを覚えています。大西さんが「この模型のthimbleは突然形が変わるんだよ!」といった感じで大変楽しそうにされていたのが印象的でした。また、私が博士を取ったときの春の物理学会でお会いしたときに「次の行き先きまってる?」と気にかけていただったりして、原子核分野の若手にとってまさに頼れる兄貴分という方でした。

私が2020年の春に基研に着任し、それから大西さんと同僚として働くことになりました。ちょうどコロナ禍が始まったばかりで基研の研究会運営が難航する中、自らの研究・教育活動をされながら基研の共同利用研としての立場を確保するために大変なご尽力をされたことを覚えています。その一例として、現在では当たり前となりましたが、大西さんが先導して基研に新しいセミナー環境を導入されたことで基研のセミナー・研究会のオンライン配信および現地とオンライン参加者の双方向の自由なやり取りができるようになりました。これに恩恵を受けている日本の物理学研究者は数え切れないと思います。

大西さんは基研にビジターが来ていると自分の研究に関係するかどうかにかかわらず、毎回顔を出され挨拶や自己紹介をされていました。私が共同研究者を基研に呼んでお茶部屋で議論している際に、そこに大西さんが通りかかりひょっと顔を出され「ウィーンのお土産あるけど食べる?」とってお菓子を出してくれることもありました。このように人懐っこい大西さんにお会いできなくなってしまったことが大変残念でなりません。

ご病気が判明してからも研究室では明るく振る舞われ、冷静でありながら常に未来を見て話されていました。研究者とはかくあるべし、と身を持って教えられたように思います。

大西さん、お疲れさまでした。どうぞ安らかにお眠りください。

谷崎 佑弥 (基礎物理学研究所)